

静岡新聞社と災害時の意識付けの重要性を共有



自衛隊静岡地方協力本部長・宮川知己一等空佐は、4月18日（木）、静岡新聞社本社（静岡市）で、毎週静岡新聞社及び静岡放送の管理職社員を一堂に会して行われている「局部長連絡会議」において、「自衛隊の災害派遣活動について」と題して防衛講話を実施した。

会場に集まった70人を前にやや緊張した宮川本部長は、まず陸・海・空自衛隊の組織について説明し、「方面隊」という部隊が全国を地域毎に守っていることや、有事や災害に際しては「総隊」という部隊が全国の部隊を一元指揮して対処することを熱弁。その後、災害派遣の要件や手続き、派遣時の即応態勢について紹介し、災害派遣が発生した際の現場取材時の基礎知識について解説した。

最後に、茨城県の百里基地に所在する百里救難隊長として捜索救助にあたった東日本大震災について、「放射能も適切な知識と説明で意識を変えることができ、恐怖も緩和できることを体感した」という経験を語るとともに、「災害は自分の身には起こらないと思ひ込む脳の危険なメカニズムが、非常時の初動を遅らせる」と伝え、日頃から「この心理」を意識し、初動に対応できる能力を体に染み込ませる重要性を説明した。

静岡地本は、今後も地元メディアと協力し、自衛隊の組織や任務に対する正しい理解の促進や親近感の向上を目的とした広報活動に邁進していく。

掃海艇「えのしま」公開に2000人 御前崎港



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・宮川知己一等空佐）は5月3日（金）と4日（土）、御前崎港東埠頭（御前崎市）において、同市が企画するゴールデンウィークイベント「あそぼう！春のおまえさきで」に併せ広報活動を行った。

御前崎港には海上自衛隊第41掃海隊（神奈川県横須賀市）の掃海艇「えのしま」が入港し一般・特別公開を行ったほか、岸壁には航空自衛隊御前崎分屯基地（同市）、陸上自衛隊第34普通科連隊（御殿場市）から部隊で使用される自衛隊車両が集まり、陸海空自衛隊合同でイベントを盛り上げた。

静岡地本は、会場に自衛官採用制度説明コーナーを開設。今年3月に海上自衛隊に入隊し、現在は横須賀教育隊（神奈川県横須賀市）にて教育中の伊藤芹華2等海士が制服姿で駆け付けてくれ、学生や親子連れなどふれあいが海上自衛隊の任務や魅力を伝えた。

イベントは両日共に天候に恵まれ、東埠頭には「えのしま」のほか、御前崎分屯基地の「Gタンク」、第34普通科連隊の「イタツマン」、静岡地本の「しずぼん」「駿河葵」など、県内で人気の自衛隊キャラクターが集めたこともあり、両日合わせて来場者が2000人を超え、大いに賑わった。

また、4日（土）は、自衛官を志す学生や家族など11人に「えのしま」の特別公開が行われ、艦橋や艇内の乗員食堂などを回り、掃海任務に係る詳しい説明を受けたほか、隊員が実際に海に潜って行う「爆発物処理訓練」を見学。その後、水中の機雷処分任務等使用するゴムボートに体験試乗するなどして海を守る海上自衛隊を体感した。

特別公開に参加した大学生は「現役自衛官から、日本のために働くことのやりがいなどを直接聞くことができ刺激になった。今日の体験を参考に、真剣に将来を考えたい」と話していた。

静岡地本は、今後も艦艇広報等を積極的に実施し、地域住民の自衛隊に対する更なる理解の向上に努め、防衛基盤の強化を図っていく。